

第7回三木市学校再編検討会議 要旨

日 時： 平成31年4月25日(木) 午後7時～9時

場 所： 市役所5階 大会議室

出 席 者：

構 成 員 加治佐哲也 兵庫教育大学 学長
山下 晃一 神戸大学大学院 准教授
小山内政子 三木市区長協議会連合会 会長
神澤 廣美 三木市区長協議会連合会 副会長
安福 政明 三木市連合PTA 元会長
黒井 俊光 三木市連合PTA 元副会長
前田 信利 平田小学校 校長(小学校校長会)
野口 博史 緑が丘中学校 校長(中学校校長会)
事 務 局 西本則彦教育長、石田英之教育総務部長、
奥村浩哉教育振興部長、坂田直裕学校教育課長、
鍋島健一学校教育課副課長

傍聴人の数： 28名

1 開会、会長あいさつ

(会長)

これまで地域、保護者の皆さんの様々な意見を聞きながら進めてきた。昨年度末に予定していた実施方針案の作成を延期したが、出来るだけ早く定めないといけない。しかし、丁寧な対応が必要なため、あらためて喫緊の課題である3つの中学校区(4地域)の方々からの意見をお伺いしたいと思う。

事務局の方もいろいろ情報を収集しているところだが、その内容も踏まえて、具体的に「いつ」「どの学校と」統合したいといった意見が出ればありがたい。

2 報告事項

(事務局)

- (1) 校區別 子ども人数予測
- (2) 2019年度 児童生徒数及び学校規模の試算

3 意見の聴き取り

(1) 星陽中学校区

(事務局)

星陽中学校区は細川地区と口吉川地区の2つの地区がある。

まず、細川地区で昨年11月頃に実施したアンケートによると、小学校、中学校共に存続を望むという意見があるものの、中学校については、教育活動の制限などから、統合についてはやむを得ない。小学校については出来る限

り存続を望む、生活圏やこれまでの繋がりから三木中学校との統合を望むというものであった。1月に意見聴取させていただいたが同様の意見であった。

平成31年3月に細川地区で行った意見交換会でも、基本的には「三木中とできるだけ早く統合を」という声を聞いていたが、小中一貫校に関する意見や質問も多くあった。細川・口吉川・吉川周辺に小中一貫校を作る場合は、いつ頃どの辺りに作るかを知りたい、第1校区の学校が小さい学校になる心配、三木中学校周辺に予定している小中一貫校を少しでも北側に建設して欲しい等の意見があったほか、若い世代の意見をしっかりと聞いてあげてほしいという意見があった。

口吉川地区では、こちらと同じく昨年11月頃のアンケート結果をいただいた。こちらでも中学校再編はやむなしということであった。小中一貫校はいつ頃どこにできるのか、という質問がたくさん出ていた。これまで、三木中学校か吉川中学校かということでは、なかなか意見がまとまらなかったが、小中一貫校、小中一貫教育という選択肢について関心が寄せられている。子どもたちが通うことになるので、今関係している保護者世代の話をよく聞いてほしいという意見が地域の方から寄せられた。細川、口吉川両地区が別れて統合することがあってもいたしかたない。

【細川地区】

(地域の方の意見)

これまでの資料などから、中学校の統合はやむを得ない、小学校については何らかの方向で残す方法を検討してもらいたい。

新しく小中一貫校(義務教育学校)を建設するのなら、位置の設定を、広報みきで示された「学校再編のイメージ図」よりもう少し北側の災害に強い場所に建設してもらいたい。5年先、10年先に自分の子どもが対象となる若い世代の意見をよく聞いていただきたい。

(保護者の意見)

具体的な通学方法など、実際に可能な方法を提示してもらわないと判断できない。実際にどこまでスクールバスを出すことが可能なのか、また、事前交流も大事である。加えて、統合に際して、子どものケアについて親が安心できる体制を示してほしい。

(保護者の意見)

中学校については、三木中学校へ、小学校は可能な限り残していただきたい。スクールバスと統合後の子ども達のケアについて提示していただきたい。

仮に細川と口吉川、吉川で統合するとして、6つの小学校と2つの中学校が一気に小中一貫校にはならないのかと市教委に尋ねたところ、まずは中学の統合を行うということであった。新しい学校が建つのかという質問には、基本的には新しく建てるが、統合の仕方や子どもたちの数を加味し、今の場所での増改築もあるという回答があった。星陽幼稚園の統合時は三木という案が示された。保護者は結論が出ているので、通学手段、再編の時期につい

て考えていただきたい。

(保護者の意見)

細川町の瑞穂は、どちらかというとも吉川地区の方が近い。しかし、今の学校の位置を考えると、三木へ出るのも吉川へ出るのも距離的には大きく変わらない。生活圏は三木にあるので、子どものことを考えると三木に行きたいという意見が多かった。

【口吉川地区】

(地域の方の意見)

広報みきで示された「学校再編のイメージ図」が、全市民向けに情報公開されたことを重く受けとめている。

2月の下旬に学校再編を考える口吉川住民集会を開催した。当日は就学前児から学生、保護者、地域住民等、大半の世代、大半の地区から30数名の参加があったが、公開されたイメージには具体的な説明がなかったため議論が進まなかった。

3月の意見交換会の中でも、特に第1校区に新設予定の小中一貫校の具体的な内容の説明を早期に望むという声が多かった。どこに、いつ、どんな特色ある内容の学校を構想されているのか。その要望はさらに強くなっている。中学校の統合は、やがてその先にある小中一貫校の再編に繋がる話であり、今は中学校だけを統合するのは考えられなくなっている。

2月以降の一連の取組を通じて、第1校区には将来的に必ず1校は残すということであれば、その第1校区の小中一貫校構想を将来の三木市のモデル校として早期に具体化してほしい。そして、一刻も早い着手を望む声がある。口吉川地区では多くなってきている。

ただし、小中一貫校構想に基本的には賛同できても、いきなり9年間の一貫教育は望んでいないこと、同一敷地内であっても、現行制度下の小学校、中学校のままで連携教育を十分に積み重ねてほしい。次に、口吉川地域に小学校は絶対に残してほしい。校区の広さと低学年児童の発達特性からも現実対応として、便宜上、本校とは別に分校として小学校を地域に残すことを公式な検討の場にのせてほしい。地域のアンケート集約でも約4割の賛同がある。今後、地域が納得できる説明がほしい。

公立の学校再編は学校だけの問題ではなく、校区の再編であり、地域の再編にも繋がる問題だ。それでも地域の子どものより良い教育活動にとって必要ならば、地域としても納得できる限り前向きに協力したいと思っている。

(保護者の意見)

保護者として、今後がどうなるかが分からない。どこに小中一貫校が建つか、通学方法がどうなるのかが分からない中で、中学校だけ決めないといけないというのは問題だと思う。具体的なものがない中では考えにくい。

(保護者の意見)

口吉川小学校は校区が広いので、中学校の統合、そして小中一貫校は子ど

もへの負担は大きい。ゴールが見えないと考えにくい。

【意見交換】

(星陽中：保護者の方の意見)

細川地区は三木中が望ましい、口吉川地区はまだまとまっていない。保護者が一番心配しているのは通学方法になる。地域が広いのでスクールバスを利用になるのか、30分程度で行けるのかなどが心配されている。

部活の選択肢が増えるのはいいが、通学時間がかかってしまうので、他の生徒と同じように練習ができるのか。部活によっても時間がばらばらなので、通学方法としてどういう案があるのか知りたい。結論として、統合はやむを得ない。

(委員)

細川では、通学方法として、具体的にどのような方法を要望されているのか。三木中学校への統合は、いつからと考えられているのか。

(細川地区：地域の方の意見)

具体的な案を示してもらわないと意見は言えない。地域内にふれあいバスというのが通っている。これをスクールバスと兼用で、地域の人も子どもたちも利用するという方法もある。また、学校専用のスクールバスでルートを回っていくという方法もある。検討する上で具体的な案を示してほしい。

(細川地区：地域の方の意見)

ここまでなら市でできるという、実現可能な案を示してほしい。通学だけではなく、心のケアなどについても具体的に地域が納得できる案を示してほしい。方向性としては、三木へ行くということで細川の意見はまとまっている。

(会長)

・星陽地区は細川地域と口吉川地域があって、細川地域の方は三木中学校を希望している。ただ、通学方法や心のケアなど事前準備の具体的で可能な案を示してほしい。

・口吉川地域は三木か吉川ではっきり決められていない。小中一貫の案をはっきりさせてほしい。具体的な通学方法など、具体的な案を示してほしい。基本的には統合はやむを得ないという意見であった。

(口吉川地区：地域の方の意見)

口吉川で三木方面へという思いがあるということは、小規模化の心配がないからだろう。吉川方面へという思いは、吉川中学校との統合ということだけではなく、農村文化、ふるさと文化の中に特色ある学校ができるならばそれも良いのではないかという考えからだと思う。吉川は口吉川と隣接しているという事実がある。また、小規模化の心配のない三木の方へという意見もある。

(委員)

口吉川の意見の中で、低学年の発達の特性からと書かれているが、基本的

に小学校というのは地域の核と考えておられる方が多いと思う。その思いが低学年の発達の特徴からという言葉にすりかえられているという感覚は無いかな。瑞穂では小さい子どもがバスに乗って通学しているがどう思うか。

(口吉川地区：地域の方の意見)

小さい子どもをいきなり遠くへ通わせるということは望まない。学校へは歩いて通わせることを望む。発達の特徴はある。地域としては核となる。

(細川地区：保護者の意見)

瑞穂は、距離があるので歩いて行けないのが事実だ。バスに乗る前に泣く子がいるのも事実。バスに乗るまでは距離があり家の前までは来ない。1時間以上バスに乗って登園していたという事実もある。バスに乗ること自体はいいとも悪いとも思っていない。情報提供をしてほしい。

(2) 吉川中学校区

(事務局)

1月の意見聴取の際にも、まちづくり協議会で実施された保護者向けアンケートにおいて、75%~80%の方が統合や再編はやむを得ないという結果を報告されていた。もちろん小規模校が良く、統合反対という意見もあった。

みなぎ台小学校に集約するという案に疑問をお持ちの方もあり、今後も説明を要する。実際に保護者の方がみなぎ台小学校を見る機会がほしいという要望があったが、6月にみなぎ台小学校で行われる親子体験行事に参加いただけるよう調整を進め、他の吉川3小学校にも案内をさせていただいている。

意見交換会を通じて感じていることは、吉川4小学校それぞれに異なった事情があること。とりわけ上吉川小学校とみなぎ台小学校については、複式学級が進んでいて、早急な対応を要することである。

1月の意見聴取や3月の意見交換会では、上吉川小学校では、同性の児童が同じ学級にいないため早期の統合を望む意見、東吉川小学校については、現段階では統合には反対で、学校を残してほしいという意見などが寄せられた。

また、みなぎ台小学校については学校周辺の交通事情の懸念、中吉川小学校についても、どちらかという統合を望む声が多いということであった。

(地域の方の意見)

吉川の地域性もあり、吉川独特の学校ができればと思っている。

(地域の方の意見)

今後、保護者としてどういう学校がいいか要望を出していく。通学バスについて一度通学ルートに実際にバスを走らせて、その中で保護者がどう感じるか試してほしい。

(地域の方の意見)

学校は地域の拠点である。しかし、現状を見ると統合はやむを得ないと思っている。地域の方に理解をいただけるように時間を取って説明していただ

きたい。魅力ある特色ある学校づくりをしてほしい。

(保護者の意見：中吉川小学校)

中吉川小学校の地域では、統合について強い反対や賛成はない。全体的にみると、統合はやむを得ないという意見が多い。この問題に対する緊迫感は、他の地域の方とは少し異なる。

地域の方々との関わりを無くしては、これからの統合を進めていくことはできない。子どもにとって友だちと触れ合う環境を与えてやるのが大切である。

(保護者の意見：中吉川小学校)

統合に対して危機感はありません。なるようになるという考えである。ただ保護者としては、幼稚園で1つになり、小学校で4つに分かれて、中学校でまた1つになることには疑問に思っている。ただし、小学校が4校いきなり一緒になるというのは、少し早いと思っている。

(保護者の意見：東吉川小学校)

東吉川小のPTA総会でアンケートをとった。意見のある方は提出して欲しいという依頼をした。48家庭中、23家庭から回答があり、その中では、存続を希望する意見が7割であった。複式学級になるのなら統合もやむなしと考えている。

自由記述では、スクールバスはどれくらい出るのか、どこまで迎えに来るのかということに心配している。みなぎ台小学校に3校が集まってきた時に駐車場は大丈夫か、危険はないかという意見もある。課題解決法を知りたい。

統合した時にどのようなコミュニティになるのか、どういう教育がなされるのか。具体的なことが示されていないため、現状では判断できないので、具体的なイメージを示してほしい。

(保護者の意見：東吉川小学校)

駐車場やみなぎ台小学校周辺の交通事情に懸念がある。具体的で実現可能なビジョンを示してほしい。ただ、地域や保護者が考える時間ができ、やみくもに進めているわけではないことに感謝している。しかし、小学校を残したいという気持ちが強い。ただし、他の校区の現状では、早急な統合の必要性があるので、それを止めるという思いは無い。柔軟な選択肢を示してほしい。

(保護者の意見：上吉川小学校)

上吉川小学校は完全複式になるかもしれないので、統合するのはやむを得ないと思う。子どもの教育活動のことを考えると4校同時じゃなくてもよいのではないかと。スクールバスのルート、便数がどうなるのか。交通量も増えてくると思うので、みなぎ台の地域の方の理解を得ないといけない。

(保護者の意見：みなぎ台小学校)

みなぎ台小学校は統合に関してはやむを得ないという方が多い。スクールバスが通るとなると交通量も多くなるので、児童の安全面への対応や行事の

際の駐車場の確保などが必要となる。

(保護者の意見：みなぎ台小学校)

統合やむなしと考えている方が多い。交通量が増えることでの安全の心配をされている方が多い。これに対応することで1歩進めていける。

【意見交換】

(委員)

アフタースクールでは、子どもたちが上吉川に集まっているが、小さい子がバスに乗ることのトラブルはある。子どもたちは対応できているのか。

(保護者の意見：東吉川小学校)

バスに乗ることについて抵抗はないと考える。ただし、どれくらいの時間乗ることになるのかが心配で、30分以内が良いと考える。

(委員)

中学校では、吉川中学校で4つの小学校が1つになる。3つの学校が1つになった後に1校が統合するのではなく、4つが一度に1つになる方がいいのではないか。後から東吉川小学校1校が統合すると「吸収される」というイメージが強いのではないか。

(保護者の意見：東吉川小学校)

今の学校に満足している方が多いと思う。新しい学校に統合した時に、このように素晴らしくなるというようなイメージを示していただけると分かると思う。具体的なイメージが分からないというのが主な意見である。

(会長)

東吉川小学校のアンケートで、小中一貫校、義務教育学校をどう思うかとの問いに対し「現状のままがよい」が多いのはなぜだと思うか。

(保護者の意見：東吉川小学校)

「広報みき」に掲載された三木市の学校のビジョンをPTAの方々に紹介し、回答いただいたが、「現状のままがよい」と答えた方々の考え方までは、分からない。

(会長)

4小学校区それぞれ事情があつて、それぞれニュアンスの違いはあるが、将来的には4つが一緒になってもやむを得ないと思っている。同時に、東吉川小学校は当分の間、今のままで良いという意見が強いと感じた。場合によっては3小学校が先に1つになって、そのあと1校が統合する可能性もあると感じた。

同時に、小中一貫校の将来像、通学方法、交通事情での安全面のことなど、具体的な手立てを示すことを望まれているので、今後、示していくことが必要だと思う。

(3) 志染中学校区

(事務局)

志染地区からは、昨年度2学期以降、意見交換や質問表など、多くの意見を頂いた。とりわけ、統合までの準備期間は、1～2年必要であり、その間に準備を進め、スムーズな統合を望む声を強くお聴きしていた。そして、平成32年の統合は早すぎるという意見もいただいていた。

1月の意見聴取では、中学校については、保護者としては、残しておきたいという意見もあるが統合に賛成し、小学校については、残してほしいという意見が多かった。地域は迷っているとのことであった。

3月の意見交換会では、学校が更に小規模になるので、保護者としては中学校を早く統合してほしいという意見があった。それを受けて、地域の方からも早く進めた方がいいのではないかという意見が複数挙がった。

通学距離を考慮して、志染の地区を2つに割って別々の中学校に通わせる案が地域の方から出された。その際に、地域や保護者の方からは、志染の子にはまとまって1つの学校に通ってほしい。更に小さな人数になって違う学校に通わせることは、やめてほしいという意見が寄せられた。

緑が丘中学校、自由が丘中学校のオープンスクールに参加いただいた方からは、昔のようなマンモス校というイメージはなく、両校とも落ち着いた学校生活の様子であるという印象を持っていただいた。

地域の方からは、今後、子どもや保護者など若い方の意見を尊重してあげてほしいという意見があった。

(地域の方の意見)

地域の中にはいろいろな意見があり一つにまとめるのは難しい状況だが、話し合いを進めていく中で、統合はやむを得ないという方向に進みつつある。後は、いつ、どことといった細かなところを提示してほしい。コミュニケーションの核として、小学校は残したいという意見が多い。

(地域の方の意見)

志染は伝統的な地域で、文化を残していく上でも学校は大事と感じる。学校をどうこうするのであれば、市の都市計画をはじめ、様々なことを併せて考えていかねばならない。

小中一貫校、義務教育学校への再編と喫緊の課題校の統合との関係性などで戸惑っているところがある。小学校は残してほしい。一貫校への再編については、志染に学校を作るということはできないだろうか。

子どもは地域で育てるという面がある。子どもの故郷がなくなっていくという気がする。志染は農村地域、緑が丘・自由が丘は新興住宅地で親の考え方、感覚の違いがあるのではないかと感じる。感覚の調整に3年くらいは準備にかけてほしい。

(保護者の意見)

平成32年度の統合が無くなったということだが、早く統合してほしいと

思っていた人からすると、とても残念だったと捉えている。保護者の中で学校再編に反対される方はほぼいない。中学校の統合も保護者の中に反対はない。前向きにとらえている。

2つの中学校のオープンスクールでは、どちらも良かったという意見が多かった。本当の姿は見られなかったという意見もあった。

保護者だけではなく、子どもたちにも学校に行かせて交流し、子どもがどう感じるのかを聞いてみたい。中3で学校が変わる生徒や保護者には不安があり、否定的になる。統合時期を先に決めて進める方法と、準備を確実にしてから統合時期を決める方法がある。

(保護者の意見)

中学校の保護者として、再編統合には前向きである。ただこれまで示された情報や説明は少なかった。具体的な情報が知りたい。

自由が丘中学校、緑が丘中学校の情報を得て、決めていきたいという思いはあったが、示されなかった。どちらの学校が良いかという保護者の思いは違うが、子どもの人数が少なくなっているという現状から、統合については進めるべきという意見が多い。また、アンケートで意見を集めて、有識者に判断してもらってもいいのではないかという思いもある。

小中一貫校の具体的なイメージがない。10～20年後のビジョンと喫緊の問題の両方の話があり、まとまらなくなっている。

(保護者の意見)

保護者としては、受験の心配があることに加えて、統合後にみんなと仲良くなれるかという心配もある。3年次での統合は避けたいという親は多い。

大学生の子にも聞いてみると、小規模の志染中学校から高校に行く時に戸惑ったようである。1クラスで小1から中3まできた子が200人、300人の中に入る。高校で教室に誰も友だちがいない状態でのスタートとなる。

統合するのであれば、中学校で多くの友達がいる中で高校に行く方が良いという思いである。

【意見交換】

(委員)

通学方法など具体的な方法はまだ課題はあるが、仮に自由が丘中・緑が丘中かで結論を出すとすれば、どちらの結論が出た方が納得される方が多いと感じるか。

(地域の方の意見)

地域から言えば緑が丘かと思う。位置が真ん中あたりにあるためである。自由が丘が一番遠くの人が非常に遠くなる。ちょうど志染地域の中心の南側に緑が丘が位置する。

(保護者の意見)

保護者数人の意見だが、買い物など生活圏が緑が丘にあることから緑が丘が良いという意見がある。近いからという理由で自由が丘という意見もある。

割合については分からない。

(委員)

統合が先に延びていくことでメリットがあるのか。子ども、親、先生方それぞれにとって良い時期は異なるかもしれないが、どこかで決めていかないといけない。

(地域の方の意見)

中学生までのお子さんをお持ちの家庭であると、「いつ」というのを早く知らせてほしい。着地点が分かれば準備ができる。今の状態は、着地点が分からない、どういう風に統合するのも分からない状態なので、着地点が見えないところに意見は出てこない。

(会長)

「中学校の統合はやむを得ない」「小学校は残してほしい」という意見と受け取った。中学校の統合先については意見が様々である。時期を決める時に、具体的にいつだったらできるということを示していく、あるいは通学方法なども示していかないと受け取った。

4 委員の意見交換

(委員)

3つの地域の話の中で、具体的な通学のことなどを知りたいという要望が出ていた。決め方はいくつかあるが、今の感じでは、教育委員会から統合の方向性を先に示して欲しいという要望の方が多いと感じている。

(会長)

各地区ともよく考えを深められ、意見を集約してくださっていた。今後、統合に向けて進めていくためには、小中一貫校の位置などは色々な要素があり難しいが、示せる内容の具体的なビジョンはできるだけ示す必要がある。特に通学方法など、現実にはできることを示していく必要がある。

(委員)

子どもでも、5、6年生になると色々なことを考えられるようになる。親子でもっとコミュニケーションをとり、子どもの意見を反映できるようにしたい。今、どのような話が出ているかなどを、もっと子どもにも話してあげてほしい。

地域に学校を残したいという思いはよくわかるが、これだけ子どもが減っている中では、どこかで再編に取り組まなければならないのなら、地域で話し合い、分かり合うことが必要である。

(会長)

実施方針の素案は、平成30年度末からは延期しているが、できるだけ早く示す必要がある。この会議として、できれば1学期末や夏くらいまでには示したいので、事務局とも協議を進めたい。3地域のご意見はとても参考になった。

5 閉会 副会長あいさつ

地域の方、保護者の方にお話をお聴きし、大変勉強になった。

学校が無くなるというのはとてもショックなことで、不安が先に立ってしまう。どうしても不安ベースの話になるが、これからは、こんな風に新しくしていこうと考える希望ベースの話にしていきたい。

三木はそれぞれの地域性が強いが、子どもが「ふるさとは〇〇地区です」ということもいいが、「ふるさとは三木です」と素直に答えるようになってもいい。どこかのタイミングで、オール三木で考えることもポイントだろう。

これから具体的な条件をどの程度示せばいいのかは分からない。30年後の地域づくりのために、我々が今、何ができるかを考えていくことが大切である。目の前の条件設定と30、40、50年後のために、何ができるかを希望ベースで考える。子どもは柔軟なので、子どもを信じて、子どもの力を借りて進める必要がある。